

次年度の政府実行計画の実施状況調査について

令和 7 年 3 月 25 日
環 境 省

1. 背景

- 政府実行計画に基づく取組については、毎年度、その取組状況を厳格に、かつ定量的に点検し、目標達成の蓋然性の向上に努めるものとされており、毎年度、実施状況調査（以下、「FU 調査」という。）を行っている。
- 近年、FU 調査における調査項目は、政府実行計画の見直し等により増加傾向にあり、調査対象施設数の多い省庁にとっては、過大な負担となっている面もある。
- このため、調査の実効性の確保と負担の軽減を両立する観点から、次年度の政府部門における FU 調査について、①定常的な調査項目の事前入力（以下、「プレプリント」という。）の実施、②FU 調査内容の最適化、③調査スケジュールの見直しを実施する。

2. 調査方法の見直し内容

① プレプリントの実施

属性情報、建築物情報（名称、住所等）、太陽光発電のポテンシャル情報等の定常的な調査項目については、前年度の調査結果を事前に調査票に転記することで、調査負担の軽減を図る。

② FU 調査内容の最適化（次年度 FU 調査項目）

複数年に一度の調査とする項目を設定し、近年、進捗状況の点検に活用されていない項目は削減することで調査負担の軽減を図る。また、目標達成の蓋然性の向上に資すると考えられる項目について、新たに調査対象に加えることとする。

上記方針に基づき見直した次年度の FU 調査項目は、別紙に示す通り。

③ FU 調査スケジュールの見直し

例年 9 月頃に調査を開始し、年度末にかけて結果のとりまとめを実施しているが、調査及びとりまとめに係る負担を平準化するため、7 月頃の調査開始を目指す。次年度の FU 調査スケジュールは、以下の通り想定している。

4 月～6 月：調査表の準備

7 月：調査票の発出

10 月：調査票の回収

11 月～3 月：とりまとめ（各府省庁への疑義照会等）

※独立行政法人等に関する FU 調査についても同様のスケジュールで実施を想定

シート	設問（2023年度実績FU調査）	設問（2024年度実績FU調査）		変更の理由	備考
		カテゴリー	内容		
1_属性	(1) 省庁名称	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	(2) 対象機関名称	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	(3) 建築物数・延床面積	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	(4) 対象機関の就業人数	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	(5) 備考	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
2(1)_公用車	①公用車の台数・燃料使用量 ※種別ごとに入力（例：ガソリン車、軽油車、EV・・・）				
	台数 ※保有・リース別	プレプリント			
	電動車で代替可能でない台数 ※保有・リース別	プレプリント			
	2022年度実績からの増加台数 ※保有・リース別	変更	2024年度に新たに調達した台数	質問趣旨の明確化のため。	
	電動車で代替可能でない台数 ※保有・リース別	プレプリント			
	2022年度実績からの減少台数 ※保有・リース別	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	年間燃料使用量	継続			
	②電気自動車、プラグインハイブリッド車の充電場所 ※自機関が入居する建物/入居建物以外の施設、充電スポット				
	電気使用量の内訳	継続			
	電気自動車・プラグインハイブリッド車の電気使用量に占める割合	継続			
	③電動車の導入予定（電動車で代替可能でない車を除く割合）				
	電動車の導入予定割合（実績）	自動算出			
	電動車の導入予定割合（累計）（代替可能でない車を除く場合） ※2024～2030各年	変更・プレプリント	2030年の電動車の導入予定割合（累計）（代替可能でない車を除く場合）	これまでは各年の導入予定を回答することとなっていたが、2030年度の導入予定のみ回答することとする。	
	導入予定なしまたは未定の場合、その理由	変更	2030年度の導入予定が100%ではない場合、その理由	2030年度に100%でない場合は、その理由を記載。	
	④電動車で代替可能でない公用車の用途、車種、代替できない理由	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
2(2)_施設	①施設における電気使用量 ※事業者ごと、自家消費に分けて入力	継続			
	②施設における燃料使用量 ※都市ガス、地域熱供給別で入力	継続			
2(3)_公用車・施設・船舶・航空機以外	①実ガス使用量	継続			
	②(1)公用車、(2)施設、船舶及び航空機以外での燃料使用量、用途	継続			
	③農業関連での温室効果ガス排出量	継続			
	④PFC、SF6、NF3の排出量	継続			
2(4)_用紙・廃棄物・冷媒	①用紙使用量	数年に一度の調査		進捗状況の点検において、複数年に一度の調査で十分であると考えられるため。	2024年度実績FU調査では実施しない。
	②廃棄物排出量	数年に一度の調査		進捗状況の点検において、複数年に一度の調査で十分であると考えられるため。	2024年度実績FU調査では実施しない。
		新規	③業務用エアコン・業務用冷蔵冷凍機器 ③-1：エアコン／冷蔵冷凍別の管理台数（2024年4月1日時点） ※冷媒別（自然冷媒（CO2、アンモニア、プロパン等）含む）※ ③-2：③-1のうち、業務用ヒートポンプ給湯器の管理台数（2024年4月1日時点） ※冷媒別（自然冷媒（CO2、アンモニア、プロパン等）含む）※ ③-3：算定漏えい量 ※冷媒別（フロン類のみ）※（算定漏えい量の報告をしている場合、回答不要） 【漏洩量の算出】漏洩量＝冷媒ごとの（充填量－回収量）×GWP	政府実行計画（令和7年2月18日閣議決定）において、フロン類の排出の抑制に関する具体的な取組が盛り込まれたところであり、この記載に関連した設問を追加するもの。	
		新規	④冷媒にHFCsを使用している家庭用エアコン ④-1：管理台数（2024年4月1日時点） ④-2：④-1のうち、2024年度中に廃棄した台数 ④-3：④-2のうち、特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）の写しの交付を受けた台数	政府実行計画（令和7年2月18日閣議決定）において、フロン類の排出の抑制に関する具体的な取組が盛り込まれたところであり、この記載に関連した設問を追加するもの。	
		廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
2(5)_優良事例	(5)温室効果ガス削減に向けた施策の優良事例	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
2(6)_船舶・航空機	①船舶使用に係る評価指標	継続			
	②航空機使用に係る評価指標	継続			
3(1)_建築物の属性情報	建築物名称	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物の所有者	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	所在地	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物の所有形態	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	2022年度に設計/建設/竣工した新築建築物	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	新築建築物の設計時期	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	政府の温室効果ガスの総排出量に関する目標の算定範囲の対象外の建築物	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	竣工年(西暦)	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	地上階数	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	地下階数	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築面積	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物全体の延床面積	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	共有部分の延床面積	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	専有部分の延床面積	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
3(2)_全建築物の取組	LED照明の導入状況に関する設問				
	一般照明（LED、LED以外）	変更・プレプリント	一般照明及び誘導灯の合計値	LED導入率の把握において、一般照明と誘導灯を区別せず合計を確認すれば十分であるため。	
	誘導灯（避難口、通路）（LED、LED以外）				
	建物全体におけるLED照明の導入予定 ※2023～2030	変更・プレプリント	2030年のLED照明の導入予定割合（累計）	2030年度の導入予定のみとする。	
	LED化の取組状況や課題	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	LED化が困難な理由	変更	2030年度の導入予定が100%ではない場合、その理由	2030年度に100%でない場合は、その理由を記載。	
	省エネ診断の今後の実施状況に関する設問				
	実施有無・実施年度	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	診断事業者名	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	診断結果に記載のある項目（CO2排出量実績、省エネ対策ごとの削減量、省エネ対策の投資額、省エネ対策による削減額）	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	省エネ診断で提案された対策数（運用改善、設備投資）	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	提案された対策のうち実施した対策数（運用改善、設備投資）	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	省エネ診断で提案された対策のうち実施した対策の具体的内容	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	省エネ診断で提案された対策のうち実施していない対策がある場合、その理由	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	省エネ診断の今後の実施予定（実施予定の有無、実施予定年月）	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	BEMSの導入状況に関する設問				
	導入有無・導入年度	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
3(3)_保有建築物の取組_BEMS	更新状況・更新年度	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	導入済のBEMSの保有機能（計測・表示機能、省エネルギー制御機能）	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	BEMSの具体的な活用方法	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	BEMSを活用できていない場合、その理由	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	BEMSの今後の導入・更新可能性（導入・更新可能性の有無、導入・更新予定年月）	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	今後導入予定がない、未定の理由	廃止		近年、進捗状況の点検に活用していないため。	
	太陽光発電設備の設置状況、設置可能性に関する設問				
3(3)_保有建築物の取組_PV、再エネ	注 太陽光発電設備の設置状況	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	↓ 合計値	継続			
	うち、2020年度の新規導入量（フロー）	廃止		調査済みのため。	
	うち、2023年度の新規導入量（フロー）	変更	うち、2024年度の新規導入量（フロー）		
	年間発電電力量（可能な限り記載）	継続			
	建築物の耐震対策	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	立地場所の海岸からの距離	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	立地場所の平均積雪量	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	空きスペースに影響する建替え、改修、建物廃止、解体計画の有無（直近の工事）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	空きスペースに影響する建替え、改修、建物廃止、解体計画の実施予定時期（直近の工事）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物の屋根や屋上の空きスペースの面積	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物の太陽光発電設備設置可能容量目安	自動計算			
	屋根形状（選択）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	陸屋根	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	折板屋根	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	傾斜屋根（瓦）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	傾斜屋根（金属）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	スレート屋根（大波スレート除く）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	大波スレート屋根	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	曲面屋根	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	テント式屋根	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	

	屋根形状その他	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	屋根や屋上の空きスペース全体が年間通じて日影になるか	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物における電力使用状況	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物に太陽光発電を設置できない他の要因の有無	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	建築物に太陽光発電設備を設置できない他の要因を具体的に	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	屋根や屋上の空きスペースにおける簡易判定結果	自動計算			
	2024年度に新規で設置済・設置見込みの導入発電容量（建築物）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	2030年度までの導入見通し（建築物）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	太陽光発電を設置できない理由（建築物）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
		新規	折板屋根と回答した建築物について、その施工方法 ※選択肢：重ねタイプ/はげ締めタイプ/嵌合タイプ/二重葺き式/わん曲加工	ペロブスカイト太陽電池のポテンシャル把握において、必要な情報であるため。	
		新規	陸屋根と回答した建築物について、防水保証の終了日及び決まっている場合は防水工事の実施予定日	ペロブスカイト太陽電池のポテンシャル把握において、必要な情報であるため。	
敷	太陽光発電設備の設置状況（敷地）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
↓	合計値	継続			
	うち、2020年度の新規導入量（フロー）	廃止		調査済みのため。	
	うち、2023年度の新規導入量（フロー）	変更	うち、2024年度の新規導入量（フロー）		
	年間発電電力量	継続			
	敷地の地盤強度・地耐力	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	敷地の海岸からの距離	自動参照			
	敷地の平均積雪量	自動参照			
	施設全体(敷地含む)の廃止計画	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	施設全体(敷地含む)の廃止予定時期	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	太陽光発電を設置できる敷地の空きスペースの面積（常時用途のない、障害物のないまとまった敷地の太陽光発電設備設置可能容量目安	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
		自動計算			
	太陽光発電導入時に棚田等を設置する必要がある場合、棚田を設置する面積が確保できるか	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	敷地の空きスペース全体が年間を通じて日影になるか	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	敷地への太陽光発電導入時にソーラーカーポート等の建築物として設置する必要がある場合、建築基準法の建ぺい率・容積率は足りるか	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	敷地と付随する建築物を合わせた電力使用状況	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	敷地に太陽光発電を設置できない他の要因の有無	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	敷地に太陽光発電設備を設置できない他の要因を具体的に	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	屋根や屋上の空きスペースにおける簡易判定結果	自動計算			
	2024年度に新規で設置済・設置見込みの導入発電容量（敷地）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	2030年度までの導入見通し（敷地）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	太陽光発電設備を設置できない理由（敷地）	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
	太陽光発電設備以外の再生可能エネルギーの導入状況に関する設問	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
3(3)_保有建築物の外壁仕様	ペロブスカイト太陽電池の設置可能性	プレプリント		毎年度大きく変化する内容ではないため。	
3(4)_新築建築物の取組	新築建築物のZEB化の状況に関する設問				
	建築物名称	継続			
	建築物の所有形態	継続			
	2022年度以降に設計/建設/竣工した新築建築物	継続			
	新築建築物の設計時期	継続			
	建築物省エネ法の性能向上努力義務の対象外の建築物又は省エネ計算の対象室がないため評価対象外とされた施設	継続			
	基準一次エネルギー消費量	継続			
	設計一次エネルギー消費量	継続			
	再生可能エネルギー供給量	継続			
	設計一次エネルギー消費量の計算時期（その他の場合、具体的に）	継続			
		新規	（基準一次・設計一次エネルギー消費量が不明の場合）BEIの値	基準一次エネルギー消費量や設計一次エネルギー消費量の把握が困難な場合もあり、実施状況の点検のため新たにBEIを記入する項目を追加。	
	省エネによる削減（％）	自動計算			
	創エネによる削減（％）	自動計算			
	合計（％）	自動計算			